

2021年1月7日(木)

① ユーロ高

⇒ 対米ドルでユーロ高が止まりません

⇒ 3~4月以降、米CPI上昇による更なる米実質金利低下が予想されます

【ユーロ/米ドル:週足】



② 豪ドル高

⇒ 1豪ドル 80円を突破

⇒ 72~73円以下を、60円台を、丁寧に買われた方は本当に良かったですね！

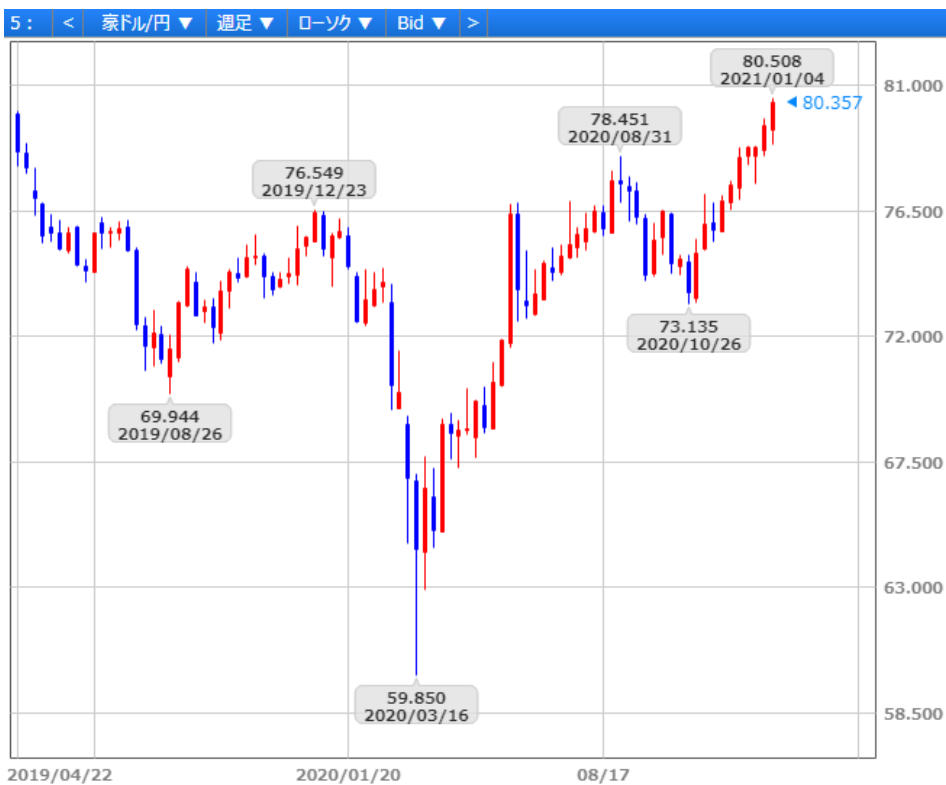
⇒ ここ2ヶ月で7円ほど円安になっています

⇒ 今年は90円に向かうと思います

⇒ 対米ドルでも大幅続伸

⇒ 金融資産に占める「ユーロ・ポンド・豪ドル」の割合を 20%前後にされることを引き続きお勧めいたします

【豪ドル／円:週足】



【豪ドル／米ドル】



③ 民主党 上下両院で過半数

- ⇒ 5日投開票のジョージア州の米上院決選投票で民主党候補が2議席ともに獲得し、同党が上下両院で過半数を制することが決まった
- ⇒ 追加経済対策やインフラ投資の拡大などが見込まれ、政策の恩恵を受ける景気敏感株を中心に買いが膨らんだ
- ⇒ 民主党政権での国債増発観測から米長期金利が昨年3月以来となる1%台(1.044%)に上昇し、金融のゴールドマン・サックスとJPモルガン・チェースの買いを誘った
- ⇒ やはり、米長期金利が上昇してもドル高にはなりませんね
- ⇒ 債券は歴史的なピークを昨年3月につけたのではないかと思います
- ⇒ 債券の保有を減らす&無くしていただければと思います
- ⇒ 一方、ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は下落
- ⇒ 長期金利上昇で高PER(株価収益率)銘柄が多いハイテク株の割高感が意識された
- ⇒ 米国は**増税**になると思います
- ⇒ **企業の利益(1株あたり利益=EPS)は減る**ことになるでしょう
- ⇒ 激震に備えるべきタイミングです

【米10年国債利回り:2年】



④ 原油

- ⇒ サウジアラビアが5日、2～3月に原油の自主的な追加減産を表明したためWTIは50ドル台に
- ⇒ 中東情勢の緊迫も相場を押し上げた
- ⇒ イランが核合意で定めた上限を大幅に上回るウラン濃縮に着手
- ⇒ ホルムズ海峡付近で韓国船籍のタンカーを拿捕(だほ)するなど、石油の輸送を巡る不安が広がった
- ⇒ 外国為替市場でドル安が一段と進んだことも一因
- ⇒ ドル建てで取引する国際商品全般に割安感が出ている
- ⇒ 「2021年びっくり10大ニュース」では65ドルになるとも

【WTI:2年】



⑤ ユニクロ

⇒ 86960 円 ▲2210 円(▲2.48%)

⇒ 67000 円前後にある「窓」を埋めに行くと思います

【ファーストリテイリング:6ヶ月】



⑥ 不動産価格

⇒ 国税庁が相続税などの算定に使う路線価について大阪市内の一部地域を対象に減額補正（下方修正）する方針を固めた

⇒ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで2020年9月までに地価（時価）が大幅に下落して路線価を下回る状況になり補正が必要だと判断した

⇒ 路線価の減額補正は初めてとみられる

⇒ 国税庁によると、20年1月からの半年間で地価が15%以上下落したのは東京都台東区浅草など6カ所だった

⇒ 地価が最も下落したのは名古屋市中区の錦3丁目と大阪市中央区の宗右衛門町の19%

⇒ 訪日観光客の増加などを背景に上昇してきたが、コロナ禍で大きな影響を受けた